



ALSO プロバイダーコース in OSAKA

令和元年 12 月 7・8 日開催

Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけ、伸ばすための教育コースです。また産婦人科医のみならずプライマリケア医が分娩を扱えるようになることを意図した訓練でもあります。1991年にACLSとATLSを参考にして、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案しました。1993年にコース権利はAmerican Academy of Family Physicians (AAFP—米国家家庭医学会) によって認可され、現在全米では多くの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOを受講することを義務づけられています。

コースの教材は、シラバス(教科書)、レクチャー、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップです。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースの終わりにあります。ALSO は分娩室における産科の救急的対処を強調していますが、その他に出産前のリスク評価、妊娠初期の性器出血、患者—医師関係、出産危機における両親のサポート、そして医療過誤リスクの減少といったテーマも含まれています。

プロバイダーコースは2日間にわたって行われます。妊娠初期の合併症、難産、妊娠の内科的合併症、妊娠後期の性器出血、分娩後大出血、早産、前期破水、妊婦の蘇生法、そしてマタニティケアにおける安全性の8つのレクチャーがあります。少人数グループによるワークショップは、肩甲難産、胎位・胎向異常、鉗子と吸引、分娩中の胎児監視、症例検討の5つです。オプション・ワークショップとして会陰縫合、帝王切開、超音波検査、出産危機における両親への対処、そして新生児蘇生の5つから適宜行われます。プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合、参加者はAAFPの認定する5年間有効の認証を授与されます。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、コース修了者は9,500名を越えています(2019年3月31日現在)。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師などであり、これまで現在あるいは近い将来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。日本全国のすべての地域で、できるかぎり同じレベルの産科医療を維持するために、産科医療に関わりたいという志を持った人たちが教育を受けられる場所を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要があります。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOです。

ALSO—Japan

ALSO プロバイダーコース in OSAKA

主催： OGCS（産婦人科診療相互援助システム）

共催： 大阪府医療人キャリアセンター

共催： NPO 法人周生期医療支援機構（OPPIC）

日時： 令和元年12月7日（土）、8日（日）

場所： りんくう教育研修棟 泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター（サザンウィズ）

募集人数： 若干名

対象： 大阪府内の卒後10年目までの勤務医のうち、大阪府医療人キャリアセンター

登録会員（キャリアプラン会員及び一般会員）

会員登録がお済みでない方はご登録をお願いします。

会員登録方法

キャリアセンターWeb、会員登録から「登録フォーム」を入手。
必要事項をご記入のうえ、枠内下の送り先までお送りください。
ご不明な点は大阪府医療人キャリアセンターへお知らせください。



なお、申込多数の場合はキャリアプラン会員が優先となります

申込方法： 件名に「ALSO 受講 希望」と記載し、[記入事項 1-12] をご記入のうえ

メール(omsc@gh.opho.jp)でお申し込みください。

申込期日： 令和元年9月30日（月）

選考結果： 令和元年10月中旬頃にメールにてご連絡します。

[記入事項 1-12] * 記入事項に不備がある場合は受理できませんのでご注意ください。

1. 氏名
2. ふりがな
3. 氏名ローマ字表記
4. 所属病院
5. 診療科
6. 役職
7. 医師区分（初期研修医、後期研修医、常勤医等）
8. 卒業年度（西暦） ※卒業年ではなく年度です。ご注意ください。
9. 現住所（郵便番号も記入ください）
10. 電話番号（携帯電話：当日連絡がつくもの）
11. E-mail アドレス（携帯電話メールアドレスは不可）
12. 大阪府医療人キャリアセンター会員番号